

令和4年度各会計決算 に対する各会派等の

意見表(要旨)

自民党豊島区議団

令和4年度一般会計及び3特別会計歳入歳出決算の認定に賛成する。

基金残高は過去最高の507億円、貯金超過額も過去最高の296億円。財政の健全性を更に高め、今後本区に起こりうるあらゆる状況に対応できる決算と評価する。

個別に意見を述べる。区内建設業者の更なる負担軽減策の検討と契約制度における優先を。来庁不要の区役所実現に向けた取組強化を。ヒアリングフレイルは、補聴器購入費助成の拡充から次の事業展開の検討を。街ぐるみでのねずみ対策の強化を。喫煙所設置に向けた取組の強化を。マナーある自転車の走行ができるよう環境整備を。区立中学校校庭の人工芝への切替えには柔軟な対応を。マンガ・アニメ活用事業は民間企業等との連携を更に強化し本区の魅力の世界発信を。

健全な財政状況を背景に先進的でウォークアブルな街づくりを強力に推進していくことで、本区の輝かしい将来像を区民に示すことができる。区民が希望と勇気を持ち続けられる豊島区となるよう引き続き尽力いただくことを切に要望する。

公明党

令和4年度一般会計、3特別会計決算の認定に賛成。以下は、事業別意見と要望。

●中長期的な公共施設改築・改修計画の策定●防災集中備蓄倉庫の西部方面設置●男性のHPVワクチン接種助成導入●高齢者見守りキーホルダー導入●多様ながん検診が一度に受診できる体制構築と、アピアランスケアの拡充●オーラルフレイル対策強化と口腔体操導入●災害備蓄品に入れ歯洗浄剤の導入●地域猫団体への活動助成●食品ロス削減推進●家庭内や企業のCO₂削減推進●エリア特性に応じたエリアマネジメンツの推進●椎名町駅北口タスクシープール設置推進●災害に強い不燃化や無電柱化建築物耐震化を促進●ファミリー世帯の多様な家賃助成の推進●私道整備助成の所有者了承等への支援と、破損した私道マンホール蓋の費用助成●旧十中跡地野外スポーツ施設の一般開放●児童相談所の適切な職員体制と児童養護施設等で育つ子どもの自立支援●移動教室等費用の物価高騰対策支援●幼児教育ビジョン早期策定●国民健康保険のジェネリック医薬品の推進

立憲・れいわ

令和4年度一般会計及び3特別会計歳入歳出決算の認定に賛成する。

審査に当たっては、予算に対し想定が実情に相当するものか、地域とつながり続ける持続的な行政であるか、決算の数字に表れてこない人への支援にどう向き合うかの観点から行った。事業ごとに要望等を述べる。セーフティコミュニティについては十分なノウハウが既にあることから、認証の在り方の検討を。区職員のリーダーシップ研修の一層の充実を。発生したコロナウイルス感染症関連費用の点検を。自殺やうつ病対策支援の拡充を。認知症検診推進事業は65歳から実施を。I K E B U S についてより丁寧な説明を。住宅施策について実態に沿った制度の見直しを。児童手当の所得制限撤廃等の率先した検討を。医療的ケア児の受入れについて保護者の負担を考慮した対応を。安心安全な教育の環境づくりを。としま区民センターの利用について十分な周知を。

誰ひとり取り残さない行政サービスの編成とともに、果敢な事業の見直しと、適切な財政運営を望む。

都民ファーストの会・国民

令和4年度一般会計・3特別会計決算の認定に賛成。積極性と堅実性を感じさせ、持続発展都市としての躍進を期待できる決算だった。

以下、個別意見と要望。ICT推進事業では、デジタル化のための人材育成の強化、エリアWiFiのアクセススポットの拡充を。外国人の実情を把握し、適法な在留のための啓発強化を。日本一の「高齢者に優しい街」実現に向け、多様な視点からの高齢者施策拡充を。土日開庁は、規模縮小も視野に入れた再検討を。安心して自転車を走行できる自転車走行空間整備、停めやすい駐輪場設備の速やかな導入を。空き家活用政策の視野を広げ、より多様な活用方法導入のために制度の拡充を。「見えない困難女性問題」に目を向け、真のジェンダー平等、男女共同参画社会実現に向けて取組を。専門家依頼費補助等を導入し、時勢に合った事業者支援補助金制度の創設を。柔軟性、自由な発想、スピード感を意識した学校教育の指導方法改善を。介護保険事業では、各主体の様々なニーズに的確に応えながら、適切な制度運営を。

日本共産党

'22年度一般会計決算、3特別会計決算の認定に反対。第一にコロナ禍と物価高騰で苦しむ区民の切実な要求に応えていなかった。独自の給付金等低所得者への支援がない。独自の奨学金制度創設等子どもへの教育にかかる負担軽減をすべき。公営住宅の増設、家賃補助制度等住宅対策が必要。職員の欠員で子どもスキップは安全・安心な遊び場となっていない。中小企業対策の改善、省エネ再エネの取組の充実が必要。防災用品の補助等の支援拡充を。

第二に区民不在、不要不急の無駄な事業を進めている。超高層ビルの建設に無駄な税金を投入。多額の税金を投入し赤字のイケアバスは直ちに廃止を。

第三にこれまでの区政運営によって、格差、ゆがみ、ひずみが生じている。学校改革が進まず格差が問題。依然として会計年度任用職員の割合が高い。システム標準化において国の言いなり。不要な本庁舎土日の窓口開設を見直すべき。保険料負担が大きい国民健康保険、後期高齢者医療介護保険の3特別会計も認められない。

維新・無所属

令和4年度一般会計及び3特別会計歳入歳出決算の認定に賛成する。

基金残高と債務残高のバランスは、時代のニーズに合わせて調整を。区有施設施設の修繕や改修経費については将来を見据えた計画の作成を。

区立体育施設内プールでのスマートフォン着用許可の検討を。認証から10年が経過したセーフティコミュニティ事業及びインターナショナルセーフティスクール事業について、認証の在り方等の見直しを。子どもへのインフルエンザ予防接種費用助成の検討を。障がい者移動支援については迅速で柔軟な対応を。路上喫煙・ポイ捨てについてはより一層の防止策を。ウォークアブルなまちづくり推進事業では、バスやタクシーなどへ駅からの動線の確保を。法令違反の電動キックボード等の対策を。教育に関わる保護者負担の軽減策について区民の声を聴きながら区独自の支援を。国民健康保険制度維持のために収納率の向上を。

時代のニーズに合った区民サービスの更なる向上が図られる区政を期待する。

無所属元気の会

令和4年度は、コロナ禍・物価上昇で大変な経済状況の中、健全財政であったからこそ、疲弊している区民の方々に目に見える、実感できる行政サービスであったか、そうした観点から質疑・提言を行った。

例えば、多世代で楽しめる麻雀台や、親子ダーツ等の区民ひろばへの設置、各学校の部活動で古くなった備品の買い替えなど、健全財政であったことを区民が実感できる区民還元施策を実施すべきである。また、区内大学・専門学校と協力して学生を町会・商店街や区内イベントに参加させるなど、地域コミュニティの次世代の担い手づくりを区が積極的にサポートをしていくことも重要である。同様に、共働き子育て世代の定住促進のため、これまでも提言していた「空き家対策抑制制」を改めて導入を検討すべき旨も提言した。

総論として、今回の決算内容は次年度以降の好調な財政、予算編成につながる決算内容であったと判断し、豊島区無所属元気の会は、令和4年度一般会計決算及び3特別会計決算認定に賛成する。